

日々の暮らしにそっと寄り添う木の家具や道具たち 毎日何度も使うモノだから ていねいに大切に心を込めて創りたい

上毛の山で
ヒノキを植えた人。
ヒノキを育てた人。
ヒノキを切る人。
ヒノキを運ぶ人。
「こうげ」ではいろんな人の手を経て
ここへきたヒノキを使っています。
ヒノキと「こうげ」の出会いに
新たないふきを吹き込みます。



こうげの工房から生まれる 手づくりの製品

美しく、楽しく、便利に暮らすためにはどのような家具が必要なのかを考え、生活することに関心がなくてはよい家具を製作することはできません。この町は豊かな自然があり、そこに暮らす人たちの繋がりが深く、生き生きしているのが印象的で、その中で生活しているといろんな五感が働き、アイデアの引き出しが増えてくるそうです。町の魅力を製品にしたい、そんな思いがメイドインコウゲの製品づくりのコンセプトになったと言います。メイドインコウゲのモチーフである梅の花の形は町の木にちなんだものだそうです。

そしてどうしてもこだわったのが地元産のヒノキを使用することでした。木工品は完成するまでに多くの工程が必要です。木はともデリケートな素材なので、各工程を通して丁寧に仕上げなければ、美しい仕上がりを保つ事が出来ません。木目や木の持つ色合いが主流のデザインなので何の木を使用するかでイメージが変わってしまいます。その点、エッジを残すデザインや木の持つている雰囲気や力など、ヒノキがびったりだったそうです。また、完成した製品はオイル塗装で仕上げるため、呼吸をしています。この地で育ったヒノキを使用することは製品を作る上でも、長い間使う上でも最も大切な事です。

地域づくり Close-up

メイドインコウゲ

メイドインコウゲは、上毛産のヒノキを使用した質の高い製品を作り「上毛町ブランド」づくりを進めていくことをコンセプトに、平成23年度地域づくり活動団体に認定されました。
現在、家具職人の村上哲秀さんを中心に町内の有志の方がメンバーとなり、活動をしています。
団体の代表である村上さんは、大学を卒業後、東京でデザインの仕事をしていたが10年前、縁があり旧大平村へ移住、中津市で木工職人として働いた後、本格的に家具の製造を学びたいと職業訓練校で基礎を学び直したそうです。
独立して製品をつくるためには木工所が必要ですが、大家である塚崎さんから地域づくり協議会の会長である山下さんを紹介され、相談したところ、大池公園多目的運動広場そばの空き工場を紹介してくれました。この時、地域づくり活動への参加を薦めてくれたのも山下さんです。製作に必要な機械も導入し、内部をリニューアル、商品のもとになる木材も森林組合の方などの協力で調達の見処がたつたそうです。
いよいよ上毛の地に根を張って新たな人生のスタートです。



製品を通して繋がって行く

メイドインコウゲの製品づくりを始めて約1年半が経ちました。その間、地域づくりの活動を通して、ドッジボール大会の景品を依頼されたり、家具や小物のオーダーをいただいたり、少しずつですが名前が浸透してきたのではと話す村上さん。そして12月からは、道の駅しんよしとみでも定番商品やこだわりの小物を中心に販売を始めました。製品づくりは始めから終わりまで全て手作りのため、完成するまでは時間がかかります。既製品の商品と比べると少し高価ですが、それだけ一点一点、クオリティーの高い存在感があると思います。「これから、たくさんの方にアドバイスを受けながら、様々な場所や世代にあった作品を提供できればと思います。それには、まず自分が好きだと思える商品を一生懸命作る事が大事ですね」と語ってくれました。

メイドインコウゲではオーダー家具などの発注をお待ちしています。心を込めて創りますのでご連絡ください。

問い合わせ先 代表 村上哲秀さん
☎ 09071577569

